

科学技術高校

生徒による

いきもの記

Vol.160 2025.10.23

2年1組 千葉 美文
(科学研部生物化学班・鳥研究)

干潟のおめでたいカニたち チゴガニ

タヌキのいきもの記でも書いたが、私は最近課題研究（シギ・チドリの研究）のために荒川河川敷に行く機会がかなり増えた。今年（2025年）の8月14日、この日は中潮で、大潮ほどではないが干潟がかなり顔を出す潮だ。この研究を始めてから父が教えてくれた潮見表アプリ「しおさい」が大活躍している。事前に調査地を登録しておけば時間によって潮位がどう変化するかグラフで分かりやすく教えてくれるのだ（べた褒めしているが、私はしおさいの回し者ではない）。そのしおさいで潮が引く時間帯を見てみると、ちょうど日中だった。夏になってどこかに行ってしまったセイタカシギたちがそろそろ戻ってくる時期なので、私は久しぶりに調査をすることに決めた。

調査地の荒川河川敷（詳しい場所は非公開）に着くと、さっそく9羽ほどのセイタカシギを見つけた。「今年もちゃんと戻ってきているな」と安心して、撮影を始めたその時、下になにかピョコピョコと動くものが複数見える。どうやらカニらしい。よく見られるベンケイガニとくらべて明らかに小さいので何のカニかと気になって近づいてみると、ほかのカニと比べて警戒心が薄く、1~2mほどまで近づくことができた（それ上近づくとさすがに砂の中に隠れてしまう）。そのカニは胸の部分が水色で非常にきれいだった。そして、ピョコピョコしたその動きはよく見ると万歳しているように見える。

このカニはあとで調べるとチゴガニというカニで荒川河川敷でも見られるそうである。体長は1~2cmほどの小さなカニで、先ほど紹介した万歳しているように見える縄張り主張と胸の水色が特徴だ。

万歳は、なにかお祝い事やおめでたい事があったときにやるものだ。チゴガニは縄張り主張で万歳を行っているようだが、近所の河川敷で綺麗なカニが万歳のような面白い動きをしているのを見て、大変おめでたい気持ち…というよりは愉快的な気持ちになった。



チゴガニ 胴体の部分がきれいな水色になっている。

チゴガニの万歳 ちなみにこの一連の動きは素速く、体感1秒くらいである。

